

カンボジアを支援して くれた高梁に恩返しを

吉備国際大学2年

ブロンペンさん

「私の地元カンボジアでは、以前から日本の団体などによる多くの支援を受けていて、私は高梁市の団体などが設立してくれた小学校や医療機関に通っていました。2021年には、支

援してくれた高梁市の医療従事者の方の紹介がきっかけで、吉備国際大学看護学科に入学しました。現在は看護の勉強をしながら、市内の病院で看護助手として働き、優しい患者さんやスタッフの皆さんから毎日元気をもらっています。卒業後は市内の医療機関で看護師として働き、お世話になった高梁市に少しでも恩返しができたら嬉しいです」

子どもの頃に見た男性 看護師は格好良かった

吉備国際大学4年

孝本拓弥さん

「小学生のときにお世話になった男性看護師に憧れたことが看護師を目指したきっかけです。高梁高校の『地域学習』（10ページ）では地域医療について学び、看護の道を強く意識するようになりました。高校卒業後は吉備国際大学看護学科に進学し、看護実習では患者さんの気持ちに寄り添った対応ができたときに看護師としてのやりがいを感じました。いつか子どもたちが自分を見て、『あの看護師みたいになりたい!』と目指してもらえるように、今後もっと経験を積んで成長していきたいです」

未来の地域医療を担う 若き医療従事者たち

コロナ禍で助けてくれた 奨学金

高梁中央病院 三上愛美さん

「高校2年時に腎臓病を患い、そのときにお世話になった看護師さんがきっかけで看護の道を選びました。高校卒業後は県外の看護学校に進学しましたが、入学早々新型コロナウイルス感染症の流行が始まりアルバイトができず、生活に不安を感じました。しかし、

高梁市の奨学金制度（11ページ）もあり、学業に集中することができました。今春から高梁中央病院で看護師として働き、日々地域の方々の温かさを感じています。これからもっと患者さんに寄り添った看護ができるように頑張りたいです」

吉備国際大学
孝本拓弥